

令和5年度 事業報告

千葉県並びに千葉県教育委員会及び公益財団法人ボーイスカウト千葉県連盟維持財団をはじめとする関係の皆様のご支援と各団・各地区のご協力をいただき県連盟事業の推進ができましたことに深く感謝申し上げますと共に県連盟の主な実施事業等につきましてご報告申し上げます。

令和5年度の事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の分類が2類から5類に変更され、ほぼ平常時の扱いとされましたが、感染拡大の終息が見通せない状況も継続していました。

このような中、県連盟事業の実施展開につきましては、平常活動の回復に向け事業を推進して参りました。

中でも第25回世界スカウトジャンボリー（8月1日～8月12日）には県連盟からスカウト、IST、隊指導者を派遣しました。この派遣期間中には、コロナ禍や台風の直撃を受けるなど厳しい条件の中での参加体験を帰国後の千葉県連盟報告会で聞き、苦しい中でも多くの経験を通じた派遣の成果を確認しました。

このほか、久しく活動が停滞していました、ベンチャー部門のチャレンジプログラムとして「ベンチャー2023」としてボーイスカウト日本連盟高萩スカウトフィールドを会場に5泊6日のアドベンチャーキャンプが開催され、ベンチャースカウトとしてチャレンジプログラムを進める中で、自己を見つめる事、新たな体験をする事など多くの成果があったものと思います。

ベンチャースカウトとして、知識・技能に対し常に「本物」を体験する事がベンチャー年代が求める活動ではと思います。今回のプログラムでは、オリンピック種目でもある「アーチェリー競技」について流山市アーチェリー協会様の支援を頂き「本物」を体験する事ができ、新たな興味へと発展したスカウトも居たとの情報もいただきました。

更に、カブスカウトイベントである「千葉県カブラリー」を是非にとの要望に応えるべく、令和6年3月17日に実施する事ができました。過去2回のカブラリー中止を受けての開催に、より多くの参加カブスカウトへのプレゼントになったものと思います。

指導者養成事業では、ウッドバッジ実修所CS課程第177期並びにウッドバッジ研修所スカウトコースを2回及びウッドバッジ研修所課程別研修を全4課程とも2回開催、ボーイスカウト講習会も年間9回開催しました。参加者の利便性向上に向けて、講習会中の託児実施の取組みも始めることができました。

例年開催しております県内団委員長集会では昨年度のテーマ「新規指導者のリクルートに関わるAIS（アダルトインスカウティング）の理解に向けたヒントを得る」をより発展させるためにボーイスカウト日本連盟AIS委員会委員長及び担当委員を講師として招聘し「団における成人のライフサイクルの活用」に関する実践的手法等について理解を深めることを目指しました。

県内隊指導者研究集会についても、「～体験活動から得る“宝物”～」をテーマに樋口拓独立行政法人青少年教育振興機構、教育事業部事業推進課長(兼)青少年教育センター企画室長の基調講演を受けパネルディスカッション等を通じて実り多い研究集会となりました。

富士・隼スカウトの県知事顕彰会につきましては、千葉県教育委員会の協力の下、黒野嘉之千葉県副知事、富塚昌子千葉県教育長、千葉県ボーイスカウト・ガールスカウト等振興議員連盟の皆様並びに千葉県教育委員会教育振興部生涯学習課長のご臨席を頂き印象深い顕彰会となりました。

次に、加盟登録数の減少傾向に歯止めが掛からない状況についてですが、この状況に対し令和5年度より、指導者支援委員会を指導者養成委員会に改編し、日本連盟の推進するAISに関わる事業を進めることとし、昨年度末にスカウトの登録数がプラスに転じたとは言え減少傾向は依然として継続しており「ワクワク自然体験遊び」等加盟員獲得に関わる事業の推進を継続してまいりました。

この結果、登録の減少傾向が改善しつつ有るようにも思いますが、未だ中途退団者が多く発生している状況にあります。更なる組織拡充事業の継続実施が求められており各地区各団が実施するワクワク自然体験遊び等加盟員獲得事業に対する県連盟としての支援体制を継続的に整えてまいりました。

また、本年度には千葉県連盟の 11 地区を新 4 地区に再編するために県連盟規約、地区に関する規約の改正や新 4 地区の地区に関する規定等の改正や準備作業に基づき令和 5 年 4 月 1 日を以て千葉県連盟の地区編成は以下の 4 地区と成りました。

- 「うみかぜ地区」(旧千葉地区、旧上総地区、旧南総地区)、
- 「なぎさ地区」(旧船橋地区の船橋市、旧市川・浦安地区、旧八千代・習志野地区の習志野市、旧松戸・鎌ヶ谷地区の鎌ヶ谷市)、
- 「かわかぜ地区」(旧北総地区、旧東葛地区、旧松戸・鎌ヶ谷地区の松戸市)、
- 「おおとね地区」(旧香取東総地区、旧印旛地区、旧八千代・習志野地区の八千代市、旧船橋地区の印西市と白井市)

この 4 地区にて令和 5 年度予定事業を実施して参りました。新地区の運営に当たり御尽力をいただいた各地区役員、各団委員長等関係各位への感謝を申し上げます。

更に令和 6 年 3 月 31 日に千葉県連盟創立 75 周年を迎える事から令和 6 年度を 75 周年間として記念事業及び式典等開催準備を開始しました。

以下、各部門別に事業の実施状況について概要を報告します。

(1) コミッショナー関係

団の教育力を向上し、地域でのスカウト運動のプレゼンスを高めるために、県連盟内のすべてのコミッショナーはコミッショナー活動方針により、団・隊の支援にあたることを念頭に活動を展開しました。

- ① 各部門の「教育の目的」と「活動の目標」を達成できるプログラムが提供できるように、隊指導者研究集会をはじめとした定型外訓練の提供により、隊指導者の支援に取り組みました。また、ラウンドテーブルの充実に向けて、県連盟共通のテーマを部門毎に設定して展開をしました。(充実したプログラムが提供できるよう指導者の資質向上に取り組み)
- ② 各種研修会などの定型外訓練、ウッドバッジ研修所スカウトコースなどを通して、スカウト教育法を活用したプログラムの展開、プログラム立案におけるスカウトの参画の実現とスカウティングの価値をプログラムにおいて実践出来る指導者の養成に取り組みました。(班制教育、成人の協力、進歩、野外活動、累進的一貫性教育を実践出来る指導者の養成)
- ③ 「スカウト・青年の参画方針」、「スカウト運動の成人に関する方針」を浸透させるために、団委員長集会、トレーニングチームの Web 研修などを通じて理解を深め、スカウトの年代に応じた意思決定への参画の取り組みを進めました。(スカウトの参画の取り組みと成人のライフサイクルの理解)
- ④ 団継続審査、全団調査をはじめとする各種データを通して、団・隊の現状を把握し、団委員長との対話を通して、団委員長の支援を進めました。
- ⑤ 団・隊指導者の支援を充実させるため、コミッショナーグループの更なる質の向上に向けたトレーニングを推進します。
- ⑥ スカウト運動の推進者であるコミッショナーとしての資質の向上に取り組みます。コミッショナーベーシックトレーニングコース、県内コミッショナー会議・研究集会などを通して、コミッショナーの支援力の更なる向上に取り組みました。

(2) スカウト委員会

- ① 技能章取得支援のためのボーイスカウト救急法講習会は計 4 回実施しました。また看護法講習会を 1 回実施しました。コロナ禍明けで、まだまだ各地域での普通救命講習、上級救命講習の開催状況にバラつきがみられ、特別措置を継続し運用しながら参加募集の促進をしました。

令和 6 年 2 月に開催された救急法講習会講師・指導員勉強会では、今年度開催した救急法講習会、看護法講習会での改善点を抽出し、ハンドブックに反映すべく協議を実施しました。また、救急法講習会・看護法講習会の講師募集、増員を心掛けましたが、増員を見ることができず、課題の残る結果となりました。

- ② スカウトの進級では、今年度は富士スカウト章に 4 人、隼スカウトに 4 人、菊スカウト章は 12 人でした。技能章については毎月、各地区の取得状況を集計し、救急法講習会、看護法講習会受講者の技能章取得率の統計をとりました。
- ③ スカウトの顕彰、表敬訪問については、千葉県知事顕彰会、千葉県連盟顕彰会では、富士スカウト章、隼スカウト章を取得したスカウトを対象に開催しました。黒野副知事よりお祝いの言葉をいただき、代表スカウトより決意の言葉を述べました。また、富士スカウトにおいては、3 月に赤坂東邸にて秋篠宮皇嗣殿下にご接見、首相官邸への表敬訪問が開催されました。本県連盟より 1 人のスカウトが参加しました。

菊スカウトの市町長顕彰会は、該当者のいる地区で実施されました。

- ④ 信仰奨励のため、各地区での講話会、宗教章取得のための勉強会開催を奨励し、計 4 回の講話会、1 回の勉強会が開催されました。なお、本年度の宗教章取得者は 6 人でした。
- ⑤ 国際関連事業として、令和 5 年 10 月に開催されたジャンボリー・オン・ジ・エア (JOTA)、ジャンボリー・オン・ジ・インターネット (JOTI) は、広く県内に参加を奨励し、県連盟特設会場の他、団での参加も含め、県内で 230 人の参加がありました。

ボーイスカウト米国連盟との交流として、極東地区と県連盟レベルの情報交換を継続し、パインウッドダービー (BVS、CS 部門中心)、合同キャンプ (BS、VS 部門中心) などのプログラムの企画、運営について会議をもちました。

- ⑥ スカウト活動発表会は令和 6 年 3 月に開催しました。今年度も、会場参加とオンライン参加の同時開催とし、より多くの人に聴講機会を提供しました。結果としては、事前の案内不足もあり、昨年度の参加者数を上回ることはできませんでしたが、91 人の参加を得ることができました。今年度は、25WSJ や千葉県ベンチャーチャレンジ 2023 などの参加者による、座談会形式での一問一答もあり、和やかな雰囲気の中で開催されました。スカウトの発表方法も動画や音楽を取り入れ、工夫を凝らしたプレゼンテーションでした。

- ⑦ 第 24 回全国スカウトフォーラムのアフターフォーラムアフターを開催しました。準備期間の少なさと時期的な問題もあり、各地区での展開にバラツキがあるなどの諸課題が健在しました。結果としては、全国アフターフォーラムアフターに代表スカウトを送ることができました。

当日の運営には県ローバース会議、地区コミッショナーの協力により、円滑な運営ができました。

- ⑧ 第 25 回世界スカウトジャンボリー派遣員では、スカウト 46 人、指導者 5 人、国際サービスチーム員 3 人を派遣しましたが、生憎の天候と傷病者対応などもありましたが、壮行会、報告会を通じて、元気な姿を見せてくれました。スカウト達からは次回の世界スカウトジャンボリーへの意気込み語るものも多く見られました。

(3) 指導者養成委員会

令和5年度の指導者養成委員会事業につきましては、長引いたコロナ禍の影響も払しょくされ、研修参加者も順調に推移して、概ね計画通りの事業を実施することができました。また、地区再編による委員数の削減を受け、委員会運営を模索する中で開設業務の見直しを行い、効率化を進めました。

ボーイスカウト講習会は年間で9回開催、また託児も再開し、昨年の開催回数・参加人数には及びませんでした。一回当たりの参加者数は昨年を上回る多くの方に参加いただきました。

ウッドバッジ研修所はスカウトコース、課程別研修とも春秋の2回実施し、参加者数は昨年を上回ることができました。

しかしながら団委員研修所、コミッショナー研修につきましては、近年の成人指導者数の減少や参加対象が限られることから、県連盟単独での開設が困難になりつつあり、令和5年度は関東ブロック、他県連盟の開設コースを紹介するにとどまりました。

赤十字救急法講習会については、令和5年度は基礎講習の開催を二回に増やし、前年に比べ参加者数を大きく伸ばしました。

① 指導者養成訓練関係の開設と参加状況 (人数は修了者数、[]は前年度実績)

・隊(団)指導者の定型訓練

ボーイスカウト講習会： 9回 215人 [13回 267人] ※
(※団委員長集会体験参加を含むと14回 314人)

ウッドバッジ研修所スカウトコース：

2回 42人(内県外者0人) [2回 38人]

ウッドバッジ研修所課程別研修：

ビーバースカウト課程 2回 13人(内県外者1人) [2回 12人]

カブスカウト課程 2回 17人(内県外者0人) [2回 15人]

ボーイスカウト課程 2回 24人(内県外者0人) [2回 22人]

ベンチャースカウト課程 2回 9人(内県外者0人) [2回 12人]

合計 63人(内県外者1人)

・隊(団)指導者の定型外訓練

団委員研修会： 2回 16人 [3回 29人]

・その他

日本赤十字社救急法講習会：基礎講習 2回 31人 [1回 20人]

：救急員養成講習 1回 12人 [1回 12人]

② 安全関係

・活動の安全等の促進、他委員会との連携として、SFH安全委員会主催の「安全促進フォーラム」、「特別な支援が必要な子供への対応セミナー」において開設業務の支援を行いました。

③ 資材管理関係

・資材管理として白井倉庫の資機材の点検と整理を行い、資材管理台帳を更新、整備しました。

・備品の維持管理として、マーキーテントの支柱等の修理の他、簡易テント、照明具等研修用資材を購入、更新しました。

・トレーニングチームと協働し、研修所開設時の資材の搬出、搬入作業を行いました。

(4) 運動拡充関係

運動拡充委員会として掲げた事業に対して、取り組んだ結果は以下の通りです。

① ワクワク自然体験あそび

- ・日本連盟を通じた募集による事業を76会場で実施しました。各団ではワクワク自然体験遊びとは別に入団説明会・体験会等実情に応じた募集活動も実施しました。
- ・日本連盟の補助金対象とならないワクワク自然体験遊びについては、県連盟から補助金を支給し事業展開を支援しました。

② 全国防災キャラバン 2023

「もしものときの思いやり防災」をキャッチフレーズに、柏、船橋、木更津のイオンモールの協力を得て実施しました。

③ 情報の発信

スカウトの活動状況を発信し、保護者はじめ社会に広く知っていただくツールとしてスカウトちば101号、102号を発行しました。

④ 地域社会・行政・企業との連携強化

地域におけるスカウト運動の存在感を高めるため、千葉県庁と千葉県青少年団体連絡協議会(青团協)と連携して事業を展開しました。千葉県忠霊塔拝礼式準備奉仕及び拝礼を実施して戦没者を追悼し、スカウトの奉仕を継続推進しました。

(5) 総務関係

総務委員会としては、県連盟の健全な運営を図るため以下の通り取り組みました。

① 当連盟運営に係る運営費用収入項目である日本連盟維持会費還付金予算達成、および千葉県連盟維持財団よりの助成金の安定拠出を図るため、それぞれの会員数増強を目的として千葉県連盟維持財団共々募集案内チラシを作成し各団に配布しました。

千葉県連盟維持財団事務局と協働して日本連盟維持会費、千葉県連盟維持財団会費の地区別納入実績を毎月理事会において報告し、それぞれの地区の納入状況実態を把握していただくことにより会員募集活動増強を図るよう努めました。

また、各地区に新規入会者増強について要請しましたが、新規入会者は計画数を達成することはできませんでした。

令和5年度実績としては、日本連盟維持会費入金額については日本連盟依頼額までは達成できましたが、県連盟として独自に計画した目標額まで達成することはできませんでした。

千葉県連盟維持会費納入額についても、特定寄付金を合わせても維持財団目標までは達成することはできませんでした。

② 日本連盟スカウト用品の県連盟経由での販売については、県連盟スカウト用品販売業務執行体制の強化、申込方法の簡便化などを図りましたが改善目標達成までには至ることはできませんでした。

取扱金額についても昨年度実績を大きく下回り、これを受けての県連盟販売管理手数料収入も前年度に比べて大きく減額となりました。

③ 事務局業務を担当しているパートタイマーとの雇用関係を明確化するため、雇用関係書類を整備しました。

(6) 「セーフ・フロム・ハーム」安全委員会

千葉県連盟セーフ・フロム・ハーム委員会では、県内指導者へのセーフ・フロム・ハームの理解とスカウトへ思いやりの心を育む教育の推進、安全に対する意識の向上に努めました。

- ① 県連盟各地区のセーフ・フロム・ハームセミナー開催への支援に努めました。
- ② 「セーフ・フロム・ハーム安全委員会からのお知らせ」（リーフレット）を配信しました。
- ③ スカウト年代に応じたセーフ・フロム・ハーム推進活動として、
 - 1) 「千葉県ベンチャーチャレンジ 2023」大会期間中、セーフ・フロム・ハームコーナーを設置し、ベンチャースカウト、指導者への理解を促しました。
 - 2) 第 22 回千葉県カブラリーの隊長集会において、「セーフ・フロム・ハーム」ガイドラインを配布し、指導者及びスカウトに日常生活の行動規範として身に付けるよう理解を促しました。また、カブラリー当日は、セーフ・フロム・ハームガイドラインに抵触する問題がないか、会場内を見回りました。
- ④ 日本連盟主催「安全促進フォーラム」開催の支援を行ない、県内指導者に安全管理、安全対策の重要性の理解を促しました。
- ⑤ 県内指導者を対象として、県連盟主催「特別な配慮を必要とするスカウトへの支援」セミナーをスカウト委員会、指導者養成委員会の協力を得て、開催しました。

(7) 千葉県ローバース会議

概ね月 2 回の定例会議を開催し、県内のローバー活動の活性化に取り組みました。

- ① 千葉県ローバース会議憲章を制定し、地区ローバースの諸制度を整備しました。
- ② 高齢者福祉施設でのノッティングボード体験会により、社会貢献活動を創出しました。また、カフェ企画の検討を通して、今後の運営会議の在り方の見通しを立てました。
- ③ 県連盟創立 75 周年記念事業の企画など、各種の県連盟事業への参画を支援しました。
- ④ SNS を用いて活動報告を行い、活動の成果を対外的に発信しました。
- ⑤ 全国ローバースカウト会議（RCJ）・同関東ブロックの事業への参加を支援しました。
- ⑥ 運営会議の職務において、クラウドや Web 会議等の ICT を用いた試行実践を重ねました。

(8) 組織評価特別委員会

千葉県連盟が社会に公認される団体となり持続的で責任のある貢献を行うための方策として、一般社団法人へ移行することの検討を進めました。

その検討概要を 2 月に開催された令和 5 年度団委員長集会にて報告しました。

(9) 千葉県ベンチャーチャレンジ 2023

令和 5 年 8 月 11 日から 16 日、日本連盟「大和の森」高萩スカウトフィールドにおいて、ベンチャースカウト 16 人、スタッフ 16 人、外部講師 3 人、総勢 35 人で開催しました。

コロナ禍におけるキャンプ経験不足を補い、スカウト技能において技能章取得への足掛かりとなる機会となり、5 泊 6 日の期間を奉仕いただく難しさの中、ローバースカウトは貴重な存在でした。

(10) 第 22 回千葉県カブラリー

令和 6 年 3 月 17 日(日)「足がら山物がたり」～さあ、お祭りだ！～をテーマに千葉県内のカブスカウトや指導者・保護者を含め合計 1353 人が集まり千葉県立北総花の丘公園でカブラリーを開催しました。各地区が運営する 6 つのブース+オリエンテーリングに挑戦、呪文をゲットし全体集会へ臨みました。

会場内全体が楽しい雰囲気で開催でき千葉県内にこんなに大勢の仲間がいることを実感できた大会でした。

みなさま、ご支援、ご協力ありがとうございました